

(一社) 日本睡眠学会 第48回定期学術集会上に登壇

7月19日にパシフィコ横浜ノースで開催された一般社団法人 日本睡眠学会の第48回定期学術集会『睡眠の解剖 ～より広く、より深く、より先へ～』に、弊社 代表取締役 社長執行役員の木谷謙介が登壇し、『交替勤務の現状・課題と解決の方向性に関する考察』と題して講演を行いました。

1. 参加経緯

2022年からアドバイザリーボードとして参加している『NOBシフトワーク研究会』※1の会長である西野精治氏（スタンフォード大学 医学部教授）から、「多くの研究者がシフトワークについての現状や問題点を深く把握するためにも、シフトワークを行っている企業からの現状や問題点、取り組みなどを示していただき、今後の改善方法の議論に繋げていきたい」との要望があったことから参加。

※1『NOBシフトワーク研究会』

生体リズムについての科学的な知識に基づいた、シフトワークの管理の在り方について、医学や生理学、データサイエンスの視点から学術的に議論する研究会

2. 講演詳細

(1) 演 題 : テーマ『交替勤務の現状・課題と解決の方向性に関する考察』

「シフトワーカーのウェルビーイングを高める（第2回）」セッションにて講演

(2) 日 時 : 2024年7月19日（金） 13時30分～15時30分（うち、20分程度）

(3) 講演内容 : 現在の鉄鋼業における交替勤務制度は、20世紀半ばまでに確立された仕組みのため、その後の医学の進歩に伴う新たな知見は反映されていない。現在の医学的知見を反映した「21世紀型」交替勤務への移行について、その必要性や有効性の観点から考察を行った。

当社には交替勤務者が1,000名強在籍しているため、当社は膨大な量の健康・安全管理関連データを保有している。今回そのデータを改めて分析、評価したところでは、交替勤務による健康面・安全面での問題は明確には生じていなかった。

一方で、製造業の現場では災害の発生件数はこの15年ほど下げ止まっている。また、当社では、従来多かった危険予知不足型災害から、「つまずき」等の運動能力不足型災害へと、災害類型もシフトしてきており、今後は旧来型の安全対策投資や教育に加えて、新たなアプローチが必要なのではないかと考える。そのため、当社では、個々人の体調をリアルタイムで見守ることで災害の発生回避・重症化回避が図れるのではないかと仮説に基づき、作業員見守りシステム「DecoBull」を開発・運用しているが、今回そのシステムから得られ

た各種バイタルデータによる知見の一部も披露した。

今後は、睡眠科学や時間栄養学の知見や「DecoBull」データの活用等により、作業者の身体的負荷をより低減できる「21世紀型」の交替勤務システムの導入を模索し、結果として会社の健康経営の実現を図っていく。

(3) その他の登壇者：

座長：西野精治氏（スタンフォード大学 医学部教授）
西多昌規氏（早稲田大学 スポーツ科学学術院教授）
演者：岡村均氏（京都大学 名誉教授/神戸大学 名誉教授）
山仲勇二郎氏（北海道大学 大学院教育学研究院准教授）
永井成美氏（兵庫県立大学 環境人間学部教授）
八木田和弘氏（京都府立医科大学 副学長）

以上